

市民との意見交換会・報告書

開催日時	平成 20年 9月 25日（木） 午前 8時 45分 ~ 午後 4時 5分	
開催趣旨	会津若松市幼稚園協会及び会津若松市保育所連合会からの要望を踏まえ、市議会として、幼稚園及び保育園の現状を把握・理解するため、分野別市民意見交換会として施設見学を実施した。	
開催場所	幼稚園：荒館幼稚園、みなみ若葉幼稚園、若松第二幼稚園 保育所：どんぐり山保育園、つるが保育園	
出席議員	出席者	樋川誠、清川雅史、佐野和枝、横山淳、小湊好廣、伊東くに、小林作一、荒井義隆、松崎新、渡部認、石村善一、斎藤基雄、渡部誠一郎、戸川稔朗、鈴木一弘、目黒章三郎、木村政司、田澤豊彦、浅田誠、佐藤義之
	欠席者	大竹俊哉、渡部優生、長谷川光雄、坂内和彦、土屋隆、近藤信行、石田典男、相田照仁、成田芳雄、本田礼子
参加者数	20名	
主な意見・提言・要望事項	<p>【公立幼稚園】</p> <p>「現状」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧北会津村時代から 0 歳から 3 歳児は保育園、4・5 歳児は幼稚園に入園するという慣習になっていた。 ・現在 4・5 歳児の一部が保育園に通園しているが、保育園では 4・5 歳児の人数が少ないためクラス編成ができない状況である。 <p>「幼児教育について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室で個別に読み聞かせを行っている。全員が集まったの教育は特に行っていない。 <p>【私立幼稚園】</p> <p>「認定こども園について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内では 1 カ所のみ今年 4 月から開園した。 ・会津地方では、喜多方市や会津美里町が幼保一元化の取り組みを既に行っている。 <p>「幼児教育について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 19年に教育基本法が改正されてからは、幼児教育のレベルアップを図る必要が出てきた。 ・幼児教育の違いは高校、大学になるに連れて出てくる。 ・小学校入学時点では、幼稚園と保育園が同じ教育レベルにあることが基本であると思う。 	

- ・本市の幼児教育振興プログラムの内容には、問題があると思う。

「子育て支援学童保育について」

- ・市内1カ所で平成16年度から開始されており、年平均35名前後が利用している。
- ・小学校入学後の障がい児は放課後に行き場がない。そのため学童保育を利用している。
- ・問題点は、幼稚園の独自運営による費用負担（補助金等の金銭的支援がない）があることと、障がい児の対応に職員がかかりきりになるため職員の複数配置が必要となり、さらに人件費もかかることである。
- ・こどもクラブと学童保育の両事業の現状から、学童保育に対する市の支援のあり方を考えるべきではないかと思う。

【私立保育園】

「幼児教育について」

- ・クラス編成は年齢別の縦割り保育と、特に3歳から5歳までの子供たちには横割り保育がある。
- ・5歳児は入学に向けて独自のカリキュラムを組んでいる。
- ・各保育園ではそれぞれの教育方針に基づき、子供たちが個人を尊重し遊びを通して学んでいる。
- ・保育は養護と教育の観点から行うものであるが、就学前教育の視点についても明確に定めている。しかしながら、小学校の教育をそのまま保育園に持ち込むものではないと思う。
- ・安全な食材を使用した手作りの給食を行っている。
- ・食物アレルギーを持つ子どもが年々増えてきており、一人ひとりに対応した食事を出している。
- ・本市の幼児教育振興プログラムに対し、問題があると思う。

「一時保育・子育て支援センターについて」

- ・毎日無料で受け入れ、悩みごとの相談などを受けている。
- ・子育て支援センターに相談に来る人はアドバイスができるが、親と子供が家庭に閉じこもっている場合に対応できないことが課題である。その解決のためには、地域の方々の支援が必要であり、そうした体制づくりも今後必要ではないかと思う。

